



## 女性研究者・技術者からのメッセージ

～島根大学男女共同参画推進室ロールモデル集 Vol.2～

## ～このロールモデル集を手にとってくださった皆さんへ～

このロールモデル集を手にとってくださった女子学生・女子高校生の皆さん、こんにちは。

これから日本は、女性の力をもっと引き出し、活躍の場をつくることが必要だといわれており、各分野において女性の活躍が目立っています。

島根大学でも女性研究者は年々増加傾向にあり、学部を問わず活躍されており、また、本学で学び、卒業した先輩方も各分野で研究者・技術者として活躍しております。

このロールモデル集は、島根大学で研究者として活躍されている方、島根大学を卒業し、社会の様々な分野で活躍されている方、12名の研究者・技術者の皆さんから、大学時代の思い出や現在取り組まれている仕事の紹介、進路選択のきっかけ、ワーク・ライフ・バランス、女子学生・女子高校生の皆さんへのメッセージを寄せていただいたものです。

皆さんと同じ学生時代に持った夢を追って、その夢を実現するために挑戦してきた先輩たちのストーリーと皆さんへのエールで構成されています。

皆さんのがこのロールモデル集を通して、先輩女性研究者・技術者のメッセージを受けて、進路選択について将来の夢やイメージが拡がるきっかけになってくれることを期待しています。

今回のロールモデル集(Vol.2)の発行にあたり、ご多用の中をご寄稿くださいました先輩研究者・技術者の皆さんに、心からお礼申し上げます。



島根大学男女共同参画推進室  
室長 塩飽邦憲

# CONTENTS

01



畠中 湛さん

02



及川 美佳さん

03



永嶺 真理子さん

04



金山 富美さん

05



廣兼 志保さん

06



香川 奈緒美さん

07



佐野 千晶さん

08



木村 かおりさん

09



宮本 まゆみさん

10



中間 由紀子さん

11



美濃地 裕子さん

12



河野 美江さん

## 学長スペシャル対談



国立大学法人島根大学 男女共同参画推進室・事業概要





## 畠中 濡 (はたなか なぎさ) さん

株式会社コベルコ科研

### 私の履歴書

- ◆ 島根大学大学院 総合理工学研究科
- ◆ 物質科学専攻 化学系
- ◆ 無期素材化学研究室 2014年3月卒業



### My favorite...

小旅行、料理、テニス

小旅行は学生の頃も社会人になってからもよく行っています。

海外旅行や長期の旅行もいいのですが、気の置けない友人とその時の気分で近場のちょっとした名所や温泉を巡るのもすごく楽しいです。

## 子どもの頃の夢

私は子供の頃からとても好奇心旺盛な性格でした。そのため将来の夢を聞かれてもなかなか1つに絞れなかったことをよく覚えています。たくさんやりたいことがあった中で理系に進んできたのは、中学の時の理科が楽しかったからでした。植物の仕組み、虹のでき方、花火の色など身近な疑問に答えが出ることが嬉しくて、興味にひかれるまま大学に入りました。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

現在私は主に鋼材の開発・改良する過程で生じる課題や、機械や建造物が壊れたときに何が原因だったのかなどを調べる仕事についています。例えば破損品の調査などは様々な要因が考えられるため、より多くの分野の知識が必要になります。私はまだまだ分からないことばかりで、大変と思うこともたくさんありますが、仕事をしながら必要な知識を身に着けていくことで、自分を育てていけるという実感を持てることが、やりがいに繋がっています。



### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

社会人になって、学生のころよりも仕事(学生の頃は研究でしたが)とプライベートとの区切りがはっきりできるようになりました。仕事のある日は仕事に集中して、その分休日は思いっきり遊び倒しています！(笑) 職場の同期や先輩もとてもよくして下さるので、プライベートの面でも今の会社に就職できてとてもよかったです。

### ③ 将来の夢・目標

今はまだ一人でできる仕事はほとんどなく、先輩や上司の方々に助けて頂いてばかりですが、早く一人前になり、『こんな問題で困っています』というお客様の助けになれたらと思います。自分の調査結果が世の中の製品の開発の手助けになっていると思うと嬉しい気持ちになります。

## 大学生（院生）時代の思い出

### ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について

学生の頃はテニスサークルに所属していました。好きなテニスをして体を動かすことも楽しかったのですが、サークル員はとても仲が良く、先輩も後輩も一緒になって遊んだり、旅行に行ったりしました。今でも連絡を取ったり、飲みに行ったりと楽しい交流が続いている。研究室に配属になってからは、研究室の仲間たちがまるで家族のようでした(笑)。一緒にご飯を食べたり調べたり、研究が上手くいかないときには励ましてくれたりと、たくさん助けてもらいました。学生時代を振り返ると本当に多くの人に支えられて来たなと実感します。



### ② 大学院進学のきっかけ

大学院に進学したきっかけは、4回生の時に始めた研究を続けたかったからという、とても単純なものでした。研究室の同期や後輩、先生方に支えられてこそのものでしたが、自分で方法を考え研究をして、成果が出たときの喜びはたまらないものがありました。また今振り返ってみると、たくさん苦労ができたことは大学院に進学した得難い成果かなと思います。悩んだことも辛かったこともたくさんありました。それでもやりきったことは自分の自信に繋がりました。やりたいときに「苦労」ができるなんてことはなかなかないでしょうから、できるときにしておくことは将来の自分のためにきっとプラスになると思います。今だからそう思えるのかも知れませんが、経験してみないとそんなことも分かりません(笑)。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

私自身もそうでしたが、大学に入って考え方や夢が変わることや、漠然とした夢が形を成すことはよくあることだと思います。大学という場所ではたくさんの人に出会いますし、多くの経験ができます。その中で自分の向かう先を決めて遅くはありません。ただ、いつでも決断するのは自分自身ですから、後悔をしないために多くの経験をして仲間を作ってください。そして漠然としていてもいいので、好きなこと、興味のあることを優先してほしいと思います。壁にぶつかったときには、嫌いなことよりも好きなことのほうが絶対に乗り越えやすいからです。あまり難しく考えすぎなくても大丈夫です。大学や大学院で学ぶ中で、卒業してからも付き合っていってもいいなと思えるくらい素敵な夢をじっくり探していってください。



## 及川 美佳（おいかわ みか）さん

ブリヂストンソフトウェア株式会社

### 私の履歴書

- ◆ 島根大学総合理工学部数理・情報システム学科 2010年卒業
- ◆ 島根大学大学院総合理工学研究科数理・情報システム学専攻 2012年修了



### My favorite...

とても鉄道が大好きで、長期休暇のたびに遠出をして鉄道の写真を撮っています。これは、岩手県を訪れた際に乗車したトロッコ列車です。

## 子どもの頃の夢

中学生の頃の担任の先生がとてもおもしろくて、いつも私たち生徒を笑わせてくれました。そんな先生のような教師になりたいと思っていました。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

私はシステムエンジニア(SE)として、タイヤの設計に使用するシステムの開発を行っています。SEはパソコンに向かってばかりと思われるがちですが、お客様と向かい合ってお話しする時間が多く、コミュニケーション能力が必要というところに魅力を感じています。システム開発ではうまくいかないこともありますが、自分の作ったものが思い通りに動いた時はとても達成感を感じます。

### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

平日は仕事に集中し、週末は、趣味の手芸や近所のスポーツジムで運動不足を解消しています。また、学生時代の友人とご飯を食べに行くことが多いです。学生時代の思い出話で笑ったりしてリフレッシュしています。

### ③ 将来の夢・目標

1日でも早く「このシステムのことなら私に聞いて!」と言えるものを持ち、周りの人から頼ってもらえるような存在になりたいです。

## 大学生（院生）時代の思い出

### ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について

大学時代はアルバイトばかりしていました。塾の講師や接客業、事務処理のお仕事などいろいろな職種を経験しました。この経験は社会人になった今でもとても役立っています。また、サークルでは保育園でのボランティアを行っていました。サークル内で出会ったメンバーとは旅行をしたり、ご飯を食べに行ったりと楽しい思い出ばかりです。



### ② 大学院進学のきっかけ

学部時代の研究が不完全燃焼で…(笑)もう少し時間をかけて研究したかったので大学院進学を決めました。また研究室の先輩方がとても博識で、私ももっと勉強したら先輩方に近づけるのかなという憧れもありました。



### ③ 現在の仕事に就きたい(研究者になりたい)と思ったきっかけ

大学入学時は、数学教師を目指していたんですけど…プログラミングの授業が想像以上に楽しくて(笑)そのまま情報工学を専攻し、学生時代に学んだことを活かせるSEの道に進みました。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

今たくさん悩んで出した答えに、正解・不正解はありません。今、自分が納得できる道に進んでください。もし、その道が違うとしても修正することは不可能ではありません。あまり考えすぎず、自分自身のいろいろな可能性を見つけ出してほしいと思います。



## 永島 真理子（ながしま まりこ）さん

山口大学 理工学研究科 地球科学分野 准教授

### 私の履歴書

- ◆ 島根大学総合理工学部地球資源環境学科 2001年卒業
- ◆ 島根大学大学院総合理工学研究科地球資源環境学専攻 2003年修了 修士(理学) 取得
- ◆ 島根大学大学院総合理工学研究科マテリアル創成工学専攻 2006年修了 博士(理学) 取得
- ◆ アレキサンダーフォンフンボルト財団 ポストドク  
トランフェロー University of Kiel (ドイツ)  
2006.5-2007.8
- ◆ 日本学術振興会 海外特別研究員 University of Bern (スイス) 2007.9-2009.8
- ◆ Institute of Geological Sciences, University of Bern, Assistant 2009.8-12
- ◆ 山口大学理工学研究科地球科学分野 講師  
2010.4-2013.3,准教授 2013.4.- (現職)



### My favorite...

旅行

### 子どもの頃の夢

小学生の頃は、星や宇宙が好きで「天文学者」になりたいと思っていました。  
初めてお小遣いで買ったものは、天体望遠鏡だった…はず?!

### 私の仕事紹介

#### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

現在、山口大学で教員として働いています。地球科学分野に所属しており、鉱物学を専門としています。疑問が次々と湧いてくる研究は、終わりのない旅のようです。そんな中、些細な発見や閃きが光となり、長いトンネルを一気に抜けられることがあります。その爽快感は言葉では言い表せません。教育も大事な仕事で、見違えるように成長して巣立っていく学生の姿は、私にとって大きな喜びです。



#### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

独身の私はすべての時間を自分のために使うことができますが、その分、仕事とプライベートの時間の切り替えが難しいです。スキルアップとリフレッシュを兼ねて、週末は英語とドイツ語のレッスンに通っています。いろいろな国や立場の方と話すのは楽しいですよ。

#### ③ 将来の夢・目標

自分の道を見失わずに、楽しく研究を続けていくことが目標です。

### 大学生(院生)時代の思い出

#### ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について

当時の大学院は日本人と留学生が約半分ずつ。文化や風習の違いに驚いたり、時には揉めたりと異文化交流の楽しさと難しさを学びました。この経験はとてもいい思い出であると同時に、その後の海外ポストドク生活の基盤となりました。



#### ② 大学院進学のきっかけ

卒論で行った研究を最後まで自分の手で解決したいと思い、進学を決意しました。

#### ③ 現在の仕事に就きたい(研究者になりたい)と思ったきっかけ

修士課程2年で参加した国際学会で、海外の著名な研究者の方から「君の結果には納得」とコメントいただき、自分の研究が世界で通用することを実感したのがきっかけです。のちにこの方の研究室でポストドク～スタッフとして働くことができました。

### 女子学生・女子高校生の皆さんへ

何か迷っているときは、挑戦せずに後悔するよりも、挑戦して後悔した方がいいと思います。多くの人に会って、いろんな場所に行って、自分のやりたいことを見つけて、充実した毎日を送ってください。



## 金山 富美（かなやま ふみ）さん

島根大学 法文学部 言語文化学科（フランス文化）教授

### 私の履歴書

- ◆ 島根大学法文学部文学科 卒業
- ◆ 大阪市立大学大学院文学研究科（フランス文学）修了
- ◆ パリ第8大学大学院文学研究科 修了
- ◆ 高等教育免状 D.E.A

### My favorite...

映画鑑賞、旅行、温泉巡りなど

♪ここ数年は、時間があると、特に神社仏閣や古墳をたずね歩き、日本を再発見しています。

## 子どもの頃の夢

幼い頃は家業の農機具店の「女社長になる！」と宣言していたようですが、あまり記憶がありません。小学低学年の頃、友達や下級生との学校ごっこで先生役を真面目に演じていたので、教師という職業にはどこか惹かれていたのかもしれません。

## 私の仕事紹介

### ① 私の仕事

フランス文学が専門ですが、その他様々な文化研究にも挑戦しています。限られた領域の深い専門は重要ですが、多角的なアプローチによる学問のあり方もあるとよいと思うし、それが私の教育活動を豊かにしていると感じます。学生から刺激を受け、私なりの「フランス学」を追求する日々は充実そのものと言えます。

### ② 仕事と生活のバランス

多少の忙しさは「面白い、ためになるなあ」と思ってやると、元気に乗り切ることが可能のようです。ただしオーバーヒートにならぬよう、公私ともども日々思い切って手を抜きます。仕事と生活の両輪を動かす人生のハンドルにも、適度な「アソビ」が必要だと思います。

## 大学生（院生）時代の思い出

- ① 英語を専攻して教員を目指す同級生が多いなか、フランス文学を選んだのは学年で私一人。先生と一対一の授業、予習は必須、風邪をひいても休めない。でも、愛情のこもった（？）スバルタのおかげで、大学院は余裕でのぞむことができました。勉強のための忍耐・体力をつけてもらったと感謝しています。
- ② 院生の頃、ある機関で演劇を学びました。表現することがよりよい理解に、そしてよりよく表現することが他の人達との知識や感情の共有につながります。これも今、教壇で役立っています。一見無駄や回り道に見えることも、かけがえのない経験です。
- ③ 大学院修了後、料理・製菓の専門学校に9年半勤務。フランスの料理書の翻訳・出版、通訳の他、多様な業務を任せられました。ハードでしたが、仕事の面白さを発見、「面白く仕事をする」ことも学ぶことができました。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

ご自身の興味を育てること、ご自身の可能性に自分で制限を設けないこと、一度何かを始めたら一心不乱に励むこと。チャンスはそこに待っていると思います。



左は私にとっての「パリのお母さん」ヴェーラおばさんとのツーショット。  
苦労人のおばさんの口癖は「何でもやってみなくちゃ分からない」。その通りです！



南仏ニース“天使の湾”と“英国人の散歩道”



## 廣兼 志保 (ひろかね しほ) さん

島根大学 教育学部 初等教育開発講座 教授

### 私の履歴書

- ◆ 島根大学教育学部小学校教員養成課程 昭和63年卒業
- ◆ お茶の水女子大学大学院人文科研究科修士課程 平成2年修了 文学修士
- ◆ 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期 平成26年3月修了見込み
- ◆ 博士(教育学)学位授与見込み

### My favorite...

猫の写真 (しま様様の猫が好きです)



## 子どもの頃の夢

小学生の頃は児童文学作家に、高校生の頃は小学校の先生になりたいと思っていました。図書館司書も憧れの職業でした。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

私は教員養成の仕事に就いています。専門は体育科、なかでもダンスの指導法です。一人ひとりのよさを引き出す授業の内容や方法を探求しています。その答えは無限にあります。それが教育という仕事の面白さだと思います。



### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

普段は仕事中心の生活を送っていますが、家族と美味しいものを食べたり大好きな猫の写真を見たりすることで日々の活力を得ています。

### ③ 将来の夢・目標

現在取り組んでいるダンス教育史研究を継続し発展させたいです。大正時代のダンス教材を復元して実際に踊ってみると、100年前の日本人がいかに器用に動けていたかということがわかり、驚かされます。歴史を学ぶことで、未来を創るヒントを得たいです。

## 大学生(院生) 時代の思い出

### ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について

大学生時代はダンス部に所属していました。仲間と切磋琢磨しながら共に技術の向上に励むことができたのは貴重な経験です。

### ② 大学院進学のきっかけ

3年生で卒業論文ゼミの勉強が始まり、舞踊史をより深く専門的に学びたいと思ったのがきっかけです。私は、ゼミで、卒論の勉強の他に、志望大学の授業で使用しているテキストを紹介してもらって独学で勉強していました。その内容はとても面白く、ぜひ大学院に進学して本格的に学びたいと思いました。進学後は、どの授業も面白く、わくわくしながら学びました。

### ③ 現在の仕事に就きたい(研究者になりたい)と思ったきっかけ

卒業論文や修士論文の作成にあたり、資料を発掘し読み進めるなかで謎が少しづつ解き明かされていく楽しさを味わえたことがきっかけです。寝食を忘れて資料の発掘と講読に没頭できるのは、本当に幸せです。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

私は高校生と大学生の頃、得意科目と不得意科目の成績に大きな差がありました。しかし、得意分野をとことん探究することで進路が拓けることもあるとわかりました。自分の得意なことや、苦しくても投げ出さずに頑張れるものをみつけることが、進路選択の第一歩になるのではないかと思います。



## 香川 奈緒美 (かがわ なおみ) さん

島根大学 教育学部 初等教育開発講座 准教授

### 私の履歴書

- ◆ 静岡県立大学 国際関係学部 国際言語文化学科 卒業
- ◆ ミシガン州立大学 大学院 コミュニケーション学 専攻 修士課程修了
- ◆ ミネソタ大学 大学院 コミュニケーション学専攻 博士課程修了
- ◆ 博士 (コミュニケーション学) 学位授与



### My favorite...

今の仕事、料理、スキー、ダンス、水泳、キャンピング、茶道、哲学

### 子どもの頃の夢

野外活動が好きで、当時所属していたガールスカウトのリーダーとして教育・地域貢献活動・異文化交流キャンプの企画・運営をしたいと思っていました。

### 私の仕事紹介

#### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

研究、講義を含めた学生指導、大学・学部の経営が主な仕事です。対人・家族間・異文化間コミュニケーション学を対象に、「他者理解」、「自己概念」、「異文化教育」の3分野に軸足をおいて研究を進めています。特に、最近の研究では、コミュニケーション学の理論と教育学的視点とを融合させた異文化教育の実践に取り組み、その方法論の構築に向けた研究も進めています。



#### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

仕事と家庭の両立をしていて、一番大きい利点だと感じることは、家庭と仕事場の2つの環境・アイデンティティーを行き来することで、気持ちを切り替えられ、リフレッシュできることです。矛盾するようですが、仕事と家庭の両立を成り立たせるための1方法として、仕事場や学外研修の場で子育てもしています。子どもを抱えながら講義をしたり、大学のオフィスで子どもを寝かせつつゼミをしたりしています。



#### ③ 将来の夢・目標

まだ自分にとって未知の世界で生活をし、教育活動を進めたいです。

### 大学生（院生）時代の思い出

#### ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について

授業に関しては、不得意な科目もありましたが、興味のある講義には没頭していました。同じ研究室の学生とデータを眺めて夜を明かしたことよくありました。サークルは、ジャズダンス、茶道、国際交流クラブとの3つを掛け持ちしました。茶道部は2年間部長を務め、ジャズダンス部ではまるで別人のように騒ぎました。アルバイトは結婚式場の配膳をしました。



#### ② 大学院進学のきっかけ

大学2年生の頃、国際行動学の講義でコミュニケーション学の分野に出会い、一目惚れしました。大学側と交渉を繰り返した末、所属学科を変更してコミュニケーション学の研究ができるゼミに配属することに成功。3年生の後半には、同学間に關して先進国であった米国の大学院で研究を深めたいと思うようになりました。



#### ③ 現在の仕事に就きたい(研究者になりたい)と思ったきっかけ

自分の好きな研究を続ける生活が、そのまま仕事になれば幸せだと思いました。

### 女子学生・女子高校生の皆さんへ

沢山の人にお会い、自分をいろいろな角度から見てみましょう。あまり急いで自分の将来を決めつけ、自分の可能性・選択の幅を減らしてしまわないで欲しいです。何がしたいのかを探求することに時間とエネルギーを惜しまず使いましょう。



## 佐野 千晶（さの ちあき）さん

島根大学医学部 微生物教室 准教授

### 私の履歴書

- ◆ 島根医科大学（現・島根大学医学部医学科）  
1994年卒業
- ◆ 日本耳鼻咽喉科学会専門医
- ◆ 島根医科大学大学院医学研究科博士課程  
2001年修了



### My favorite...

#### 食べること。

朝食は、仕事をする上で元気の源です。最近の朝食は、暖かい牛乳にほうれん草、きな粉、半りごまをトッピング、野菜の味噌汁が多い。

## 子どもの頃の夢

小動物とふれあうことや、星を眺めるのが好きでした。漠然と科学者になりたいと思っていました。AINシュタイン先生にずっと憧れています。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

我々の周囲には、細菌、ウイルスなどの微生物がうじゅうじゅうと膨大にいますが、この中のほんのわずかな種類がヒトに病気を起こします。どのような機序で細菌が病気を起こすのかについて研究・実験を行っています。また、医学部の学部生、大学院生への講義、実習といった教育を担当しています。研究で新しい発見があること、学生さんの成長に関わることは、大変楽しく、刺激的なことです。

### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

現在、高校生、中学生の2児の母です。結婚当初から妻と嫁の役割は放棄し、母親を少しやっています。子供達、家族、職場の方には迷惑をかけっぱなし、頼りっぱなしです(いつかは恩を返せるかな(笑))。子供が小さい頃は、睡眠時間を確保出来ず疲労困憊、焦ることも多くありましたが、日々懸命で気がついたら子供達がそこそこに大きくなっていました。

### ③ 将来の夢・目標

微生物の研究で独自性の高い新たな発見をしたいです。写真は病原微生物を扱うための安全キャビネット。



## 大学生（院生）時代の思い出

医学部は、高校並みのタイトなカリキュラムなので、講義、実習、試験対策に忙しくしていました。それでも、晴れて独り暮らしを始めたので、夜遅くまで友人と飲んだり話したり、部活、恋愛、旅行など自由で楽しい時期でした。一方、大学院進学や科の選択、結婚等に悩んでもいました。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

師匠から「自分という原石は自分でしか磨けない。」と教えてもらいました。自身の可能性や力を、自分自身が信じなくて、誰が信じるでしょうか？ダメだと思った時点で大抵の結果はダメです。ひょっとしたら出来るかもと信じれば、出来る可能性が生まれてきます。なりたい自分になるためには、漠然としていてもいいので、「こんなことに興味がある。」「こんなことやってみたい。」と自分から積極的にアピールし、周囲の助言に耳を傾けて下さい。そして大事なことは、なりたい自分に必要な、今出来ることに、思いっきり真剣に全力で取り組むことです。



## 木村 かおり (きむら かおり) さん

島根大学 医学部 法医学講座 助教

### 私の履歴書

- ◆ Brandeis University 2001 年卒業
- ◆ 島根大学医学部学士編入学 2007 年卒業
- ◆ 島根大学医学部附属病院 研修医
- ◆ 島根大学大学院医学系研究科 2012 年修了 医学博士の学位授与

### My favorite...

子供と一緒にお菓子やケーキを作るのが楽しみです。



## 子どもの頃の夢

小学生の頃は警察官(刑事)。高校生頃からは漠然と生物関係の研究者。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

難事件を解決するのが法医学者！は行き過ぎですが、ドラマに出てくるような理知的な警察官や検事さんと一緒に仕事をして楽しいです。微量な古い血液から中毒物質を見付け出したり、白骨や腐敗死体からDNA鑑定をして身元を特定する技術の進歩は目覚ましいですが、まだまだ裁判科学に役立てる研究が必須です。日本の死者数はこの先 30 年は増える一方であり、死体の診かたについて講義や講演を行っています。また、東日本大震災では日本全国から法医学者が集まり被災遺体の死体検査を遂行しましたが、このような大震災対応についても指導しております。最近は当大学に Ai(死後画像診断)センターが設置され Ai での遺体診断にも従事し、虐待疑い児の損傷診断等生体鑑定も行っています。



### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

3児の母ということもあり、保育園に預けられる平日に集中して仕事をしています。司法解剖は緊急性が高く休日や夜にもありますが、法医学講座のスタッフに理解をいただき、可能な限りは執刀してそれ以外は他のスタッフにお願いし協力しています。

### ③ 将来の夢・目標

解剖好きではじめた法医学ですが、これほど警察官・検事・裁判員・海上保安庁・消防署・児童相談員等多岐にわたり貢献交流できる仕事はなかなかないと思いました。法医学者の尽力で人々の権利、福祉、幸せを保証できることを普及させていきたいです。

## 大学生(院生)時代の思い出

### ① 現在の仕事に就きたい(研究者になりたい)と思ったきっかけ

私は10年程アメリカに住んでいたのですが、その際にジュラシックパークやERの作者 Michael Crichton、監察医が主人公の Patricia Cornwell 作の小説に出会いました。医学や科学的な内容が多く、医学への興味が高まりました。帰国後は自分がやりたい事は「法医学」なのだとわかり、医学部へ学士編入し現在に至っています。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

はじめは私のように小説やニュースからでもいいです。10 年前に比べると法医学関連を扱った書物は飛躍的に増えていますので目を通していただけたらと思います。法医学は解剖だけでなく、科学的分析技術や法曹界とも密接に関連している医学医療ですので、医学にこだわらず各理系文系への進学希望者にも大変参考になり興味を持てる世界です。推理する謎解きの面白さや世の中の裏に隠された真実を垣間見ることもあります。何気なくでも法医学というものに触れてみて欲しいです。



## 宮本 まゆみ（みやもと まゆみ）さん

島根大学 医学部 看護学科 基礎看護学講座 助教

### 私の履歴書

- ◆ 佐賀医科大学 医学部看護学科 2000 年卒業
- ◆ 佐賀医科大学大学院 医学系研究科看護学専攻（修士課程）2002 年修了
- ◆ 島根大学大学院 医学系研究科医科学専攻（博士課程）在籍中

### My favorite...

「旅」をして現地の人と触れ合うのが好きです。  
西アフリカのニジェールでは、水も電気もない生活を  
体験し、多くのことを考えさせられました。



## 子どもの頃の夢

小さい頃はピアノを弾くことが大好きで、音楽に携わる仕事に就きたいと思っていました。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

私の仕事は看護学の教育と研究です。学科では、血圧測定や採血といった看護技術を教えるだけでなく、患者さんへのケアをおとした関係性の構築や、医療安全などについても一緒に考えています。また、公開講座「子ども科学教室」では、毎年小学生を対象に呼吸と二酸化炭素について教えています。



一方、医療事故で多発する「転倒転落」を予防するための研究も行っています。ベッド上での人の動きなどをセンサーで検知し、離床を予測するシステムの開発を試みていますが、期待通りの結果は得られず試行錯誤の繰り返しです。落ち込むこともあるけど、周りからの励ましやアドバイスにいつも助けられています。私が研究を続ける一番の理由は、「増え続ける病院での転倒転落事故を減らしたい」「患者さんの安全を守り、スタッフの心身の負担を少しでも減らしたい」という思いが根底にあるからです。今後もこの思いを大事にして、諦めずに続けていきたいと思っています。



### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

現在は「育児と仕事と研究の日々」を送っています。限られた時間を使いながら、常に優先順位を考え行動しています。大変なこともあるけど、育児支援サービスを活用し、家族や職場の理解、研究室のメンバーのサポートのおかげで乗り越えられています。家では子どもと接することで仕事や研究のことを忘れることができ、職場では育児から解放されて自分のことに集中できるため、心身のバランスがいい具合に保たれているのだと思います。

## 大学生（院生）時代の思い出

### ① 大学院進学のきっかけ

もともと看護師として働いていましたが、佐賀医大時代の指導教官から「島根大学で教員を募集しているから応募してみたら？」と声がかかり、島根大学で働くことになりました。大学で勤め始めるとキャリアアップのために博士号の取得が必要となつたため、育児休暇を利用して大学院（博士課程）に進学することを決意しました。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

みなさんは無限の可能性を秘めています。夢は大きく、何事にもくじけず、自分を支えてくれる人を大事にして、遠回りでもいい、自分の信じる道を進んでください。もし進路で迷ったときは、あなたのことを冷静に客観的に見てくれる人の意見に耳を傾けるといいです。きっといいアドバイスをくれるはずです。



## 中間 由紀子（なかま ゆきこ）さん

島根大学 生物資源科学部 農林生産学科 助教

### 私の履歴書

- ◆ 島根大学生物資源科学部地域開発科学科 2005 年卒業
- ◆ 島根大学大学院生物資源科学研究科 2007 年修了
- ◆ 烏取大学大学院連合農学研究科 2010 年修了
- ◆ 博士（農学）学位授与

### My favorite...

趣味は、音楽を聞くこと（ユーミンが好きです）、温泉に入浴でのんびり過ごすことです。

## 子どもの頃の夢

小学生の頃は漫画家、中学生の頃は考古学者になりたいと思っていました。

## 私の仕事紹介

現在、大学では日本の農業政策に関する授業を担当しています。私自身は、戦後の農業政策の一つである「生活改善普及事業」について研究しています。この事業は、農村の生活を改善すると共に、女性の地位向上に大きな役割を果たしたもので、アメリカ発祥のこの事業が、歴史や風土の異なる日本でどのように受け入れられたのかということに 관심を持ち、研究に取り組んでいます。



## 大学生（院生）時代の思い出

### ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について

大学時代を振り返ると、勉強、アルバイト、友人との旅行などが思い出されます。友人と農業のボランティアサークルを立ち上げ、週末は近隣の農家で草取りやバラの剪定などをしたことも良い思い出です。



### ② 大学院進学のきっかけ

大学院に進もうと思ったきっかけは、3回生の時に配属された研究室で、現在の研究テーマに出会ったことです。卒業論文を作成するに当たり、たくさんの本や資料を読み、関係者の方々に聞き取りを行いました。こうした過程を経て、事実を一つ一つ解明していくことがとても面白く、自分が本当にやりたかったことはこれだと思うようになりました。今後もこの研究を継続したい、研究者になりたいという思いから大学院に進み、今に至ります。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

将来、何をやりたいかと言われても今は明確に答えられないかもしれません。ですが、焦る必要はありません。どんなに小さくても、自分の心が動かされる「何か」を皆さんには持っています。その思いを大切にして、新たな一步を踏み出してみて下さい。



## 美濃地 裕子（みのじ ゆうこ）さん

島根大学 入学センター 准教授

### 私の履歴書

- ◆ 広島県立広島女子大学 文学部 国文学科 1987年卒業
- ◆ 島根県公立学校教員に採用され、高校国語の教員として勤務する
- ◆ 島根県教育委員会事務局事務職員として広報業務等に携わる
- ◆ 島根県教育センターで指導主事として研修運営等に携わる
- ◆ 島根大学入学センターで准教授として高大接続業務等に携わる

### My favorite...

島根の郷土と食・地元の温泉・道の駅めぐり

## 子どもの頃の夢

小学校・中学校の頃は文章を書くことが比較的好きで、作家や詩人にあこがれていた時期もあります。不公平な世の中に抗うような人になりたいと思っていました。

## 私の仕事紹介

- ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)  
高校教員であった経験を生かして、高校教育と大学教育を接続するところの仕事をしています。学校が、一人の人間が大人になる過程を支え育む環境であるためには、小・中・高・大などの学校がもっと接続する必要があると考えています。そのためには働くことにはやりがいがあります。
- ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)  
ふだんは仕事が中心の生活ですが、休日に素朴で美しい島根の自然の中に身をおき、家族と温泉に行ったり、少し遠出をしたり、おいしいものを見つけて味わったりするときは、命あることの幸せを感じる瞬間です。
- ③ 将来の夢・目標  
二度の転職を経験しており、現在の業務に慣れているわけではありませんが、仕事に携わっているからにはプロフェッショナルとしての働きをしたいです。そして、自分の色や味わいがどこかに出ているような仕事をしたいです。

## 大学生（院生）時代の思い出

- ① 授業、サークル、アルバイトなど大学生活について  
大学1~2年生の時は100人の学生寮において、いろいろな価値観や考え方にお会いました。また、「短詩型の会」というサークルに所属し、創作活動を通して自他の内面とじっくり向き合いました。発言することや自立し行動することの大切さを学んだ4年間だったと思います。
- ② 現在の仕事に就きたい（研究者になりたい）と思ったきっかけ  
何かを育てる仕事というのは素晴らしい。その中でも、人を育てる仕事は素敵でやりがいがあると思って教員になりました。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

自分が何に向いているかと考えるより、与えられた環境の中で何ができるのか、何をしたいのかを考えて踏み出すこと。そうすることで、人の器は磨かれ、大きくなれます。





## 河野 美江（こうの よしえ）さん

島根大学 保健管理センター 准教授

### 私の履歴書

- ◆ 松江北高等学校、佐賀大学医学部医学科 1987 年卒業
- ◆ 1994 年 医学博士授与（島根大学）

### My favorite...

クラシックバレエと着物。お稽古は短時間で集中するので、成果はともあれ気分転換には右ってございます。

## 子どもの頃の夢

本を読むのが好きな空想癖の強い子どもでした。「どうしてなの？」と聞くことが多かったらしく、周囲の大人は困っていたかも。

## 私の仕事紹介

### ① 仕事(研究)の内容とやりがい・魅力(仕事・研究のおもしろいところ)

島根大学医学部では、子宮頸がんの研究を行いました。また、1993 年に松江生協病院女性診療科に思春期外来を開設しました。心理的アプローチの必要性に迫られ 1999 年に臨床心理士を取得し、その経験を活かして 5 年前より島根大学保健管理センターで学生相談に従事しています。現在、「子宮頸がん検診の受診率向上」を目指して携帯メールを使った受診勧奨プログラムの研究を行うと同時に、県内女子大生「いなたひめプロジェクト」を設立し若い世代へ予防啓発活動を行っています。他に女性診療科での経験をもとに、2014 年 1 月に県内の弁護士、臨床心理士たちと、「しまね性暴力被害者支援センターさひめ」を立ち上げました。このように実践していく中で感じた疑問や課題を研究に繋げ、女性の一生にわたって「こころと身体」の両面から健康をサポートできる仕事に、やりがいを感じています。



### ② 仕事と生活のバランスについて(家庭・趣味との両立)

子どもが小さい頃は夜の呼び出しもあり、母や保育ママの助けを借りて子育てをしました。「仕事 60 点、家庭 60 点でも合計 120 点だから良し」と言い聞かせ、出来る範囲で出来ることを精一杯やりました。子どもとは、一緒におやこ劇場に参加したり、お風呂に入ったり…今思うと、多忙ながらとても幸せな時間を過ごせたと思います。

## 大学生（院生）時代の思い出

剣道部、現代音楽クラブに所属。大学祭では剣道部のうどん屋をやりながら、招待したアーチストの接待をし、3 つのバンドでキーボードを弾いていました。当然日常生活も剣道とバンドの練習に明け暮れ、多忙な中で優先順位をつけること、頭を下げる学んだと思います。

## 女子学生・女子高校生の皆さんへ

「自分はどうなるだろう」と漠然とした不安があるのではないでしょうか。いくら考えても予測がつかないのが人生ですので、今やりたいことに思いっきりチャレンジしてください。

The dream comes true…夢は見なければなりませんから。



学長  
スペシャル対談

撮影協力／松江市 アクイール 碧の迎賓館

山口大学大学院 理工学研究科 准教授  
島根大学大学院総合理工学研究科卒業

# 永嶽真理子さん×小林祥泰

NAGASHIMA MARIKO

島根大学 学長

KOBAYASHI SHOTAI

永嶽真理子さん(左)／1978年生まれ、福岡県福岡市出身。01年3月、島根大学総合理工学部地球資源環境学科を卒業後、同年4月島根大学大学院総合理工学研究科地球資源環境学専攻に進学。03年3月同課程を修了し、同年4月に同研究科マテリアル創成工学専攻に進学。06年3月に同課程を終了し、博士(理学)の学位を取得。その後、フンボルト財団博士研究員(キール大学)、日本学術振興会海外特別研究員(ベルン大学)、ベルン大学Assistant、島根大学大学院総合理工学研究科プロジェクト研究員を経て、10年4月より山口大学大学院理工学研究科地球科学分野講師、13年4月准教授に就任。

# 好奇心、こそが、自分を成長させる

ゲストは、レアアースを含んだ新種の鉱物を発見した永嶌真理子さん。

国際色豊かな学生時代の体験を活かし、世界規模で活躍する永嶌さんならではの、

グローバルな話題があふれる対談となりました。

日頃から、いろいろなことにアンテナを張ることが大切  
研究が人と人を繋ぎ、今回の発見に携われました

**学長** 今回のレアアースを含む

新鉱物の発見、おめでとうござ  
います。この「ランタンバナジウム  
褐簾石（かつれんせき）」は一体  
どのようなものですか？

**永嶌** 褐簾石という鉱物は、意

外と身近にあるものなんです。

褐簾石という鉱物自身に、レア  
アースが割と多く含まれている  
んですが、今回発見した石が珍  
しいのは、これまで知られていない  
い種類のバナジウムが非常に多

く含まれているという点です。

**学長** 三重県伊勢市にある、昔

の小さな鉱山で見つかったとか。

**永嶌** 石を発見したのは地元の

アマチュアの方なんです。「珍しい

石があるから、ぜひ研究してほ

しい」と。石の中に脈が通ってお

り、その中に数百ミクロンしかな

い鉱物が入っていたのですが、日

頃から研究している私が見ても、

すぐには分からない。発見した

方の鑑定眼は本当にすばらしい

と思います。

**学長** 地元でいつも見ているか

らこそ気付けたのでしょうかね。

**永嶌** 本当に。その方が石を愛

媛大学に持ち込み、私が研究し

ている分野の石だったので一緒に

研究を、という話になりました。

**学長** 地元でいつも見ているか

らこそ気付けたのでしょうかね。

**永嶌** 本当に。その方が石を愛

媛大学に持ち込み、私が研究し

ている分野の石だったので一緒に

研究を、という話になりました。



2013.10 vol.18

Shimadai

島根大学広報誌  
広報しまだい

■学長スペシャル対談

島根大学大学院総合理工学研究科卒業  
山口大学大学院 理工学研究科 准教授

永嶌真理子さん

# 海外の文化に触れ、コミュニケーション能力を磨く そうすることで、グローバルな感覚が磨かれる



さ」と語る永嶌さん。自分が知りたいと思ったことは、とことん突き詰めます。

自然と交流する」とができるようになります。

学長 話は変わりますが、学部間のコミュニケーションについてはどう思われますか？

学長 ところで永嶌さんも学ばれた本学の地球資源環境学は、

国際的にも評価の高い研究をたくさんしているんですよ。海外からの留学生も多いので、英語だけでやる講義もあるんです。

永嶌 たしかに、大学院生の半分は留学生でした。だから留学生と同じ部屋で生活し、様々な文化を肌で感じることができました。大袈裟にいえば、そういう

環境が私の人生を大きく変えたのではないかと思っています。

学長 本学ではグローバル人材の育成に取り組んでいますが、本当の意味でのグローバルとは英会話ができる、ということではなく、様々な文化や思想を知り、人間としての幅も広げることではないでしょうか。

永嶌 そういう意味では、周囲に常に留学生がいる環境は、とくに貴重でしたね。私はドクターを取得した後、ドイツに1年半、スイスに2年半留学しましたが、島根大学時代に常に留学生と一緒にいたおかげで、気負いはありませんでした。

学長 英語は学問というより、あくまでコミュニケーションのためのツールです。だから、海外に出て自分がいかに英語が話せないかを知れば、自ら進んで勉強しようと思うはず。そういうモチベーションがないと、たとえどんないい教育を受けても身に付きます。だから私は本学の学生たちに、短期間でもいいからとにかく世界を見てきてほしいと切に思います。

永嶌 大学生くらいの年代の時に、留学したり、海外の学会に参加したりするのは大切なことです。私は学会で同じような研究をしている人がいると、少しくらい言葉が通じなくても「今度一緒に何か研究しよう」「あなたの論文を送つて」という感じで

永嶌 確かに、大学内で誰がどのような技術を持っているか見えないことが多い。そういう事に関して相談できるところがあればいいだろうな、と思いますね。



## 数々の神話伝説の残る島根だからこそ、地質学と考古学両方からの研究ができる

**学長** そうすると、研究内容がどんどん広がる。いま、永嶌さんは山口大学で研究をされていますが、本学を含め他大学の研究室との連携も含めて、可能性が広がりますね。ちなみに島根県は歴史的にも地域学的にも恵まれたところですが、こちらでの研究はいかがですか？

**永嶌** 島根にいた時はまだ学生だったので、独自性がある研究には至りませんでした。でも、今研究を進めている山口の鉱山とは、地質学的につながりがありそうですし、島根の研究をしていき

**学長** 同じ鉱山の研究でも、島根だと出雲神話や歴史的な文献も残っているので、調査自体も面白く、調べやすいと思いますよ。ここには砂鉄が多く、斐伊川の砂鉄にもレアアースやレアメタルが結構含まれているとか。

**永嶌** 実はいま、島根大学の赤坂教授研究室が島根・広島県境にある銀山を研究していますが、将来的に共同研究で調べようという話があります。地元の方が、ここには昔から銀山があつて、すごいものを掘つてたんだという言

い伝えをご存知だそうで、すごく誇りに思つていらっしゃる。だから、地元の方にも「皆さんに聞き伝えていたことは正しかったんですよ」と言えるような研究がしたいですね。

**学長** 本学では先日、「くにびきジオパーク・プロジェクトセンター」を設置しました。ここでは総合資源や歴史考古学、さらには医学や医薬など、本学の知識的資産をフルに活用した研究を行なうのが本来の役割なんですが、

みんな地質調査ばかり重点的に進めてしまう。地質の研究だけに留まらず、歴史と考古学が加わって、初めて古代出雲文化に進めてしまつ。地質の研究だけに留まらず、歴史と考古学が加わって、初めて古代出雲文化に

なるのではないでしょうか。  
**永嶌** 確かに、昔の技術では発見できなかつたものが、現代の技術で発見されるようになつています。古代出雲には銅鐸やたたら製鉄など、素晴らしい物がたくさん残つていますね。



小林祥泰／1946年生まれ、出雲市出身。慶應義塾大学医学部卒業後、島根医科大学医学部教授、島根大学医学部附属病院長などを経て、2012年4月より島根大学長に就任。専門は神経内科学。

## 意識啓発事業・広報活動

- ◆ 講演会、セミナー、シンポジウム等の開催
- ◆ ホームページ、メールマガジン等による情報発信
- ◆ 女性研究者採用増加に向けた取組



事業案内、イベント告知、お役立ち情報…等、  
随時更新！



昼休みを利用して、教職員問わず、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスについての提案や要望の収集、意見交換等を行っています。



## 学生支援事業

- ◆ 理系進路選択支援
  - ① 女子高校生の理系進路選択支援（理系の女性研究者等の裾野拡大）
  - ② 中学生を対象とした理系進路選択支援事業等の検討
- ◆ 女性研究者等の裾野拡大に向けた取組
  - ① 女子学部生の大学院への進学支援
  - ② 女子学部生の大学院への進路選択支援事業の成果の検証
  - ③ 学内の関係部局と連携し、女性研究者のロールモデルを示し、女子学生の大学院へ進学を支援する相談制度の充実



島大理系学部の女子卒業生が登場し、大学時代のこと、大学・大学院で学んだ専門知識を生かして社会で活躍されている様子、そして高校生へのメッセージを語ってくれています。



女子学部生と女子大学院生が研究科や学部を超えて、気軽に交流しながら、大学院生から大学院で研究することへの思いや、大学院合格に至るまでの準備等についての経験を学部生へ語る機会とします。



## ワーク・ライフ・バランスの推進

- ◆ 育児休業の利用等教職員に対するワーク・ライフ・バランス制度の利用促進
- ◆ 両立支援関連制度の広報・周知の強化
- ◆ 全学的両立支援システムの構築
  - 既存の支援システムを継承するとともに、多様な雇用形態の教職員や学生が利用できる育児・介護支援事業等のワーク・ライフ・バランス施策を検討
  - ① 育児支援・介護支援の情報提供
  - ② 研究サポーター配置制度
- ◆ 出雲キャンパス（医学部）における保育支援



育児に積極的に協わっている本学の男性教職員の方々に登場して頂き、ご自分の体験や思いを熱く語って頂くコーナーです。



## 女性研究者・技術者からのメッセージ ～島根大学男女共同参画推進室ロールモデル集 Vol.2～

2014年3月



国立大学法人島根大学 男女共同参画推進室

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060 番地

Tel.0852-32-6018  
Fax.0852-32-6833  
[kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp](mailto:kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp)  
<http://gender.shimane-u.ac.jp/>



国立大学法人島根大学 男女共同参画推進室  
Shimane University Support Office for Gender Equality